

120701 甲羅干し

大和葛城山系の山麓の“ある池”で…

水面上に突き出た枝の上で、3匹の「カメ」が“甲羅干し”をしていました。
特に珍しい光景、という訳ではありませんが…

今や、都市内の多くの池では、その生息個体の大半が「ミシシippアカミミガメ」と言えるほどの“席卷”ぶりなのですが、
この3匹をよく見ると、在来種もいるようです。

しかも…

◆写真の個体は、右から順に

①「ニホンイシガメ」 ②「ミシシippアカミミガメ」 ③「クサガメ」

だと思えます。

①&③は在来種です。

果たして

それぞれの個体は、お互いのことをどのように思っているのでしょうか？

ちなみに、

中国・台湾原産の「ハナガメ」と、在来種の「ニホンイシガメ」との交雑種が名古屋市内で見つかった、とのニュースを聞いたことがあります。

ですが、この3種の交雑はあまり聞いたことがありません。

ということは…

この3種、人間から見れば“似たもの同士”なのですが、
当事者？たちは、やはり「別の生きもの」として見ているのでしょうか…？

※ ニホンイシガメ

我が国の固有種です。

本種の子ガメは「銭亀（ゼニガメ）」と呼ばれています。

（「銭亀」としてペットショップなどで売られているのは、クサガメの子どもであることも多いようですが…）

※ ミシシippアカミミガメ

もともとは日本にいたカメではありませんが、「ミドリガメ」としてペット用に輸入されたものが
飼い主に捨てられて野生化し、繁殖して日本の池や沼でも増えています。

※ クサガメ

日本の川や池などで最も普通に見られるカメです。（都会ではミシシippアカミミガメに席卷されていますが）
足の付け根あたりにくさい臭いを出す腺があるので、「臭ガメ」と呼ばれているそうです…

